



あきる野市下水道事業経営戦略【概要】

計画期間：R7～R16年度



経営戦略の考え方

経営戦略…公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画

効率化・経営健全化の取組

- ・広域化、民間資金・ノウハウの活用
- ・組織、人材、定員、給与の適正化
- ・その他の経営基盤強化の取組

反映

投資対象の検討

- ・ダウンサイジング、スペックダウン
- ・長寿命化
- ・過剰・重複投資の見直し 等

収支均衡

財源試算の検討

- ・料金の見直し
- ・内部留保額の見直し 等

収支ギャップが生じた場合にはその解消を図る

投資・財政計画の策定

経営基盤強化と財政マネジメントの向上

投資試算

- ・施設・設備の現状把握
- ・将来予測
- ・目標設定
- ・投資の合理化
(目的達成に必要な合理的投資額の把握)
- ・投資試算

投資以外の経費

- ・必要かつ合理的金額を前提とした効率化取組が必要

財源試算

- ・財務状況の把握・分析
- ・将来財源等の予測
- ・財源構成の検討
(※将来予測を踏まえた各財源の検討)
- ・財源試算

収支均衡

収支ギャップが生じた場合は、方策等により収支均衡を図る

PDCAサイクルの活用による進捗管理と見直し・改善

本市の下水道事業経営戦略について

あきる野市下水道事業経営戦略

【目的】

- ・財政基盤の強化と経営の健全化
- ・中長期的な視点に立った戦略的経営による持続可能性の向上

【計画期間】令和7年度～令和16年度の10年間

【位置づけ】

「あきる野市総合計画」に基づく



あきる野市下水道事業プロフィール

- ・H4.11.16供用開始（排除方式は分流式）
- ・地方公営企業法財務規定等を適用（R2.4.1～）
- ・東京都多摩川流域下水道に接続（広域化）

下水道事業の概要

《使用料》

従量料金制と累進使用料金制の組み合わせ

汚水量	使用料
10m ³ 以下	530円
11m ³ 超20m ³ 以下	130円/m ³
21m ³ 超30m ³ 以下	145円/m ³
31m ³ 超50m ³ 以下	170円/m ³
51m ³ 超100m ³ 以下	200円/m ³
101m ³ 超200m ³ 以下	230円/m ³
201m ³ 超500m ³ 以下	270円/m ³
501m ³ 超1,000m ³ 以下	310円/m ³
1,001m ³ 超	345円/m ³

従量料金制
…汚水量に応じて支払額変動
累進使用料金制
…使用量に応じ使用料単価変動
※あきる野市下水道条例別表6

《施設》

◆管渠

…総延長376,862.03m

Φ200mm未満	12,383.62m
Φ200mm	176,901.12m
Φ250mm	159,951.99m
Φ300mm～Φ499mm	13,807.46m
Φ500mm～Φ1,349mm	13,782.82m
不明	35.02m

◆マンホール

マンホールポンプ	56箇所
マンホール	16,565箇所

◆処理場・ポンプ場

なし（流域下水道に接続）

組織

下水道担当課長以下10名の職員で下水道業務を担当

都市整備部

生活排水対策課

《勘定別内訳》

損益勘定	7人
資本勘定	3人

その他（民間活力の活用等）

- ・業務の一部を外部委託し、効率化
- ・使用料徴収を都に委託【共同化】

使用料徴収	東京都水道局
維持管理業務等	（公財）東京都都市づくり公社

現状分析（経営の状況）

◆経営の健全性・効率性

➡適正な使用料収入の確保と污水处理費の削減が課題

- ・経常収支比率は100%台で推移しているものの、多額の基準外繰入金を含んでいるため、使用料収入の確保が必要である。
- ・R2年度から経費回収率は90%台で推移。経費回収率が100%を下回っていることは、污水处理に係る費用を料金収入で賄っていないことを意味する。

◆老朽化の状況

➡更新計画の検討が必要

- ・本格整備はS60年代からであり、いまだ整備の途上
- ・施設は比較的新しいが、整備時期が短期間に集中しているため、近い将来、更新時期が短期間に集中して到来する見込み

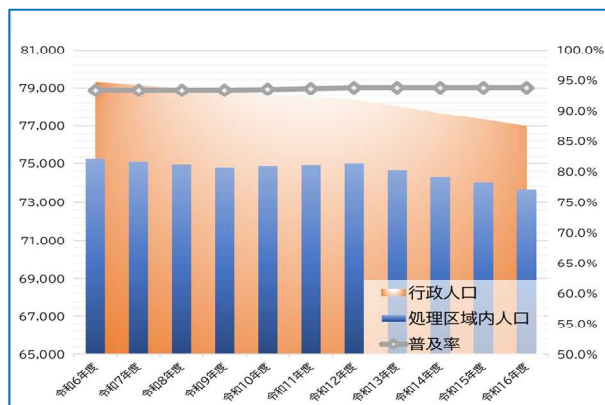
	R4年度		R5年度	
	全国平均	類似団体平均	あきる野市	
収益的収支比率	104.9%	105.32	100.15%	100.11%
経費回収率	90.5%	107.13%	96.82%	96.59%
污水处理原価	138.676円	104.86円	116.23円	115.73円
水洗化率	94.46%	99.74%	98.37%	98.41%

経営の基本方針

- 公共下水道施設整備の推進
 - ・費用対効果を見極めながら慎重に整備
 - ・計画的な更新に取組み、事業の平準化を図る
- 公共下水道事業の健全経営の確保（目標：経常収支比率100%）
 - ・下水道使用料については、原則5年ごとに見直しを検討
- 財源の確保（目標：経費回収率100%及び基準外繰入金の削減）
 - ・一般会計からの繰入額をより減少させ、独立採算制の経営に向けた健全化を図る
- 民間活力の活用
 - ・ウォーターPPPを含む運転管理とユーティリティ管理を含めた包括的民間委託の導入を検討
 - ・効率的・効果的な維持管理が可能となる官民連携手法の導入を目指します

将来見通し

◆処理区域内人口



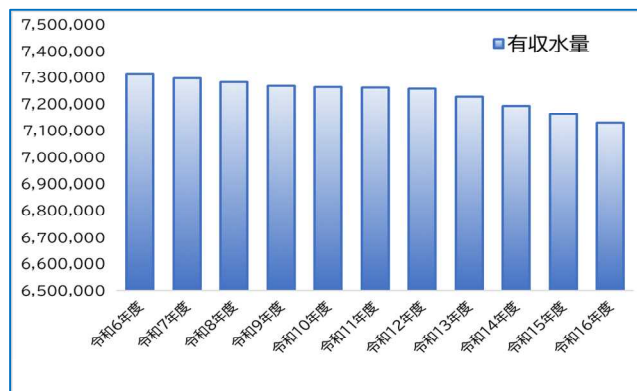
- ・処理区域内人口は、人口減少の影響を受けて、減少していく

◆使用料予測



- ・使用料収入は、有収水量の推移に比例して、減少していく

◆有収水量



- ・有収水量は、人口減少の影響を受けて、減少していく

◆施設について

【既存施設】← R3.3ストックマネジメント実施方針策定

- ・着実な点検と適切な維持管理を実施し、長寿命化を図りつつ、最適な更新計画を策定する

【新規整備】

- ・経済性等を勘案の上、順次整備を行う

◆組織について

全庁方針（組織・機構の合理化と人事の活性化）に沿って、人材育成（研修実施等）や効率性向上（業務フローの見直し等）に取り組む

事後検証・改定等

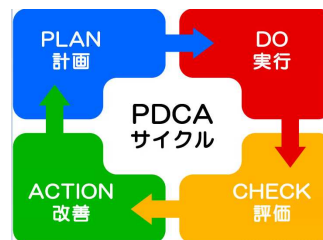
PDCAサイクルを用いて定期的見直し・継続的改善を図る

◆モニタリング

毎年度、決算及び投資・財政計画（収支計画）の実績値に基づき進捗を管理・評価

◆ローリング

5年ごとに、目標の再設定や戦略の修正・再策定の要否を検討し、見直し・改善を行う



投資・財政計画（見通しと目標）

《課題》

- ・本市下水道は、新規整備の途上にあるとともに、整備済み施設は更新時期の到来が迫っている。
- ・使用料収入は、人口減少により将来的に減少する見込み。
- ・東京都の流域下水道維持管理にかかる費用が増大。それに伴い、本市でも維持管理負担金が増え、支出額が増加する。

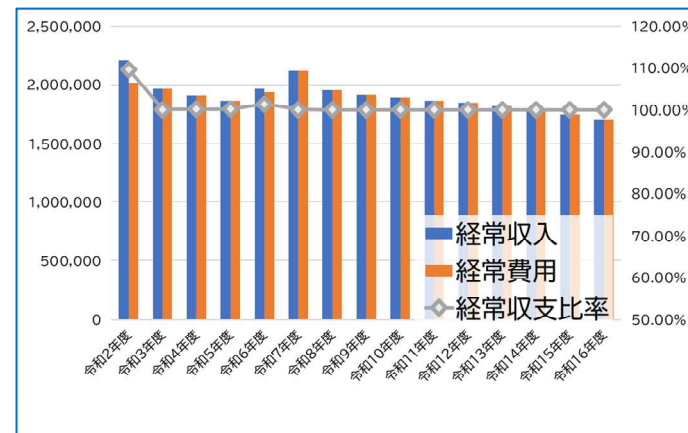
投資の目標

- ・適切な汚水処理の概成
- ・管渠の計画的更新・維持管理
- ・広域連携による全体効率の向上

財源の目標

- ・料金収入の確保と経費の縮減
- ・基準外繰入金の抑制
- ・健全な事業経営

経常収支



経常収支比率
100%を維持するためには、引き続き、一般会計からの基準外繰入金が必要になる

今後の予測シミュレーション（パターン別）

令和8年度における使用料金収入に対する汚水処理費の不足額は106,986千円を見込んでいる。

◆パターン① 使用料改定初年度である令和8年度に経費回収率100%を達成

改定率14%（使用料単価112円→128円）
使用料収入に対する汚水処理費不足額の回収を想定

◆パターン② 使用料改定初年度である令和8年度から計画期間最終年度である令和16年度までの基準外繰入金の平均値である年3.5億円の削減を目標とした改定率

改定率43.5%（使用料単価112円→161円）
独立採算制の原則から基準外繰入金約3.5億円の削減を想定